

## 昔のことを調べよう（4上）

### <本稿の構成>

- I 目標・学習事項
- II 学習材について
- III 学習活動計画
- IV 本時の展開（第5時，第7時）
- V 授業のふり返し・評価
- VI 児童の作品例

### I 目標・学習事項

1 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。

- ◇ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。（話す聞く）
- 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。（書く）
- △ その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すこと。（言語事項）

### II 学習材について

作文の総合単元である。子供たち自身が興味・関心をもった内容について身近な人たちから詳しく話を聞いてみる。その中から自分で調べてみたいことを選び、調べ、書きまとめていくといった「子供の問題解決の過程」を例文や書きまとめたものの活用の仕方までを視野に入れて構成してある単元である。特に、子供が「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」（中央教育審議会第一次答申より）を育成するために「子供たちが自ら学ぶ」上で必要な「学習の見通し」と「人とのかかわりを通じた情報収集の方法」の例がわかりやすく示されている。

### III 学習活動計画（全13時間……内話す聞く1時間）

時間	学習活動	教師のかかわり
第1時	<p>（先生・子供）「社会科で学習した昔のことなどをもとにして調べたいことを見つけ、いろいろな形にまとめてみよう。」</p> <p>○『昔のことを調べよう』を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>（子供）「昔の遊びっておもしろそうだな。詳しく調べているんな人に教えてあげたいな。」</p>	<p>●他教科での学習経験と国語科の学習内容を結びつけ、読み手を想定した表現活動の場を設定する。</p>
第2～4時	<p>○「だれに向けて」「なんのために」「どのように」書きまとめるかを自己決定し、取材活動を行う。</p> <p>例</p> <p>（子供）「外であまり遊ばない小さい子に」「友達と外で元気に遊んでくれるように、昔の楽しい遊びを</p>	<p>●目的、相手、方法意識を明確にもたせてから取材活動に入るよう展開する。</p> <p>●図書館の利用や身近なお年寄りから情報を収集する活動を奨励す</p>

	知らせたい。「読みやすい『昔の遊び新聞』の形で作ろう。」「おじいちゃんやおばあちゃんに電話で聞いてみよう。」「学校や近くの図書館で調べよう。」	る。
第5～10時	○書き進めていく過程で、内容や構成、記述の仕方などをクラスの中で伝え合い、それらをもとに書きまとめる。 ○ある程度まとまった段階で、中間発表会をする。	●それぞれが書きまとめたものを中間段階で伝え合う場を設定し、目的や相手に応じているかを相互評価するようにかかわる。
第11～13時	(先生・子供)「中間発表会での話し合いをもとに、清書して、読んでもらえるよう、図書館などに置いてもらおう。」	●「だれ」が読むことになるかをきちんと考え、どのように書いたらいいかを考える。

#### IV 展開例……本実践での展開例は新聞作りを中心として行ったものである。

本時の展開（第5時）

目標

- さまざまな伝えたい相手や目的と、それに合わせた記事の選び方や書き方の工夫があることに気づき、自分の新聞作りに生かしていこうとする。

子供の意識と活動
<p>……これまでに、「昔の遊び」について相手と目的を決めて材料を選び、記事を書き始めている。</p> <p>○学校で配られているいろいろなお便りは、どんな伝えたい相手や目的に合わせて書かれているのであろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書記局だより、児童会館だより</li> </ul> <p>(子供)「学校にいるみんなに向けて書いているから、行事のことなどをやさしい言葉で」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、PTAだより</li> </ul> <p>(子供)「家族の人あてだから、協力してほしいことを丁寧な言葉で」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→「学校で配られているおたよりも、伝えたい相手や目的に合わせて書く内容や書き方に違いがあるんだ。」</li> <li>→「自分たちが作っている昔の遊び新聞では、伝えたい相手や目的に合わせて工夫できるところはないだろうか。」</li> </ul> <p>(子供)「教えてくれたお年寄りに読んで、懐かしがってもらいたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→「教えてくれた遊びを詳しく、丁寧な言葉で書こう。」</li> </ul> <p>(子供)「外国の人に、日本にしかない昔の遊びを知ってもらいたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→「外国でもできるような遊びを選んで書こう。」</li> </ul> <p>(子供)「昔の遊びを知らない小さな子たちにやってもらいたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→「できるだけみんなでできるものをやさしい言葉で書こう。」</li> </ul>

本時の展開（第7時）

目標

- 伝える目的や相手に応じて、作成している新聞記事のレイアウトを考えることができる。

子供の意識と活動
<p>○新聞のレイアウトを考え合おう。</p> <p>(子供)「伝えたい相手が同じ人たちと、レイアウトの仕方を交流しよう。」「教えてくれたお年寄りに」「外国のかたに」「あまり外で遊ばない小さい子に」</p>

→「どうして同じ相手に向けて書いているのに、レイアウトの仕方に違いがでてくるのだろう。」「教えてくれた遊びでおもしろそうなものから……。」「外国のほうがやれそうな遊びをトップにしたんだ。」「できるだけたくさんでできる遊びをトップにしたんだ。」

→「伝える相手と同じでも、目的が違えば、伝えたいことの内容や順番が違ってくる。だから、レイアウトにも違いができるんだ。」

相手や目的を考えて、自分の新聞のレイアウトを見直してみよう。

(子供)「〇〇さんの考えがよくわかるから自分のレイアウトを変えてみよう。」「いろいろ考えてみたけれど、このレイアウトがよいと思う。」

## V 授業の振り返り・評価

相手と目的を設定し、それらに応じた表現方法を自己決定してから取材活動に入り、題材を選び、構成を考え、記述の仕方に工夫をしていくことは、子供自身が自己評価の観点を持ちながら学習活動を進められるという利点がある。しかしながら、自分の活動を自己評価のみで進める過程では知らず知らずのうちに学習のスタート時の相手意識や目的意識が希薄になりがちである。

本時の展開例は2例とも具体的な文章をもとにして、相手意識と目的意識に応じた方法（記述と構成）を考え合うことによって、方法意識をより深めていくことをねらいとした話し合いを中心とした学習である。また、中間段階で相互評価活動を通すことは、意欲的に話し合い、意識を深め合うことができる「はずみのつく学習展開」を生み出すことが確かめられた。

単元全体を通して、子供たちには他教科（社会科の学習内容など）との関連が意識しやすく、学習活動への取り組み方が意欲的であった。自分で問題を見だし、調べ、まとめ、読んでもらうという一連の問題解決過程が体験でき、総合的な学習の時間にも生かしていける基礎・基本の力となりうる学習となった。

○児童の作品例（展開例2で活用した中間段階のレイアウト変更可能な新聞）

## VI 児童の作品例（展開例第7時で活用した中間段階のレイアウト変更可能な新聞）

